

「1年の計は元旦にあり」とよく言われますが、今年こそ…と立てた目標も、自身への甘さによりなかなか達成できないことはありがちな話です。私も幼少時代からそれを繰り返す少年でした。今年も例年通り目標だけは立てようと考えていると、本年は特別な年であることを思い出しました。

そう、天皇陛下の御退位および皇太子殿下の御即位により平成31年は4月30日までで、翌5月1日からは新たな元号となるのです。まだ、新たな元号は示されていませんが、ここで思い出されるのは、「昭和」から「平成」に変わるときのことです。

当時私は高校3年生で、もう間もなく卒業を迎える昭和64年の始めでした。1月7日に昭和天皇が崩御したことを受けて、同日午後には、当時の小渕恵三内閣官房長官が翌1月8日以降を「平成」と墨で書かれた生乾きの2文字を掲げたあのシーンは、まだまだ記憶に新しいかと思えます。

また、竹下登元内閣総理大臣は、この「平成」の意味として、「国の内外にも天地にも平和が達成される」という意味が込められており、これからの新しい時代の元号とするに最もふさわしい」と説明されています。

さあ、どのような元号となるのか。どのような意味が込められるのか。今年の4月には答えが明確となりますが、いづれにしても今年も変わらない1年は同じ1年であるため、やはり「1年の計は元旦にあり」として、原点に立ち返り目標達成に向けて努力、挑戦あるのみです。



全国一の生産量「ポンカン」

本市が全国一の生産量を誇るかんきつ「ポンカン」は、1月～2月に食べごろを迎えます。果実に種はありますが、皮がむきやすく糖度が高いのが特徴です。

いくつかの品種があり、本市にまつわる品種として「今津ポンカン」と呼ばれる品種があります。



【みかん研究所職員 山本 さん】

昭和26年に吉田町浅川の今津さんが高知県土佐市の市原さんから穂木を分けてもらい、自園で育てたのが始まりとされています。

昭和48年の調査で、優良系統であることが確認され「今津ポンカン」と呼ばれるようになり普及しました。

マ×知識

ポンカンから枝分かれした注目品種

▶ 不知火 (清見×ポンカン)

清見のジューシーさとポンカンの甘さが特徴。収穫直後は酸味が強いので、少し貯蔵して酸味が落ち着いた2月末ごろが食べごろ。



▶ 甘平 (西之香×ポンカン)

愛媛でしか栽培されていない県オリジナル品種。薄皮で種もなく、シャキッとした独特の食感。その名の通り甘くて形が平たいのが特徴。

